

(読者の声2)「奈良県・椿本」さんの山本五十六愚将論ですが、私はアメリカに51年も住んで、世界を歩き、アメリカの兵役経験者などに、今まで多数の意見を聞きましたが、山本五十六氏はアメリカに留学して、アメリカの国力の基礎になる鉄鋼、オイル産業などを見えています。

この広い世界の草の根の一般庶民から見た真珠湾攻撃作戦の成功しその反響からの山本五十六愚将論を考えてみたいと思います。

まず、開戦の前に、日本政府に突きつけられ、ハルノートとダグラス・マッカーサー将軍が議会で1951年5月3日、アメリカ上院軍事外交合同委員会の公聴会にて述べた言葉を読むと、開戦の真珠湾作戦より、歴史的な世界の政治、軍事、資源、人口の形態、宗教などの組み合わせから見ると、今の世は真珠湾開戦により、どのような変化と変遷があったか考えると、愚将論など唱える人の世界の歴史的感で見ると『井戸のカエル、天下を知らず、』と感じます。

私の道路隔てた向かいの家には、海軍潜水艦のソナー係を務めた水兵が居ました。真珠湾の太平洋潜水艦基地から開戦の2日前に演習で潜水艦で出航して戻って来たら惨憺たる被害で、装備を整えてまず豪州のダウインで最後の補給をすると出撃して、日本の貨物船2隻を沈め哨戒中のゼロ戦に発見され、爆弾で損傷して浅い海底に鎮座して、酸素が無くなる前に、ジーゼルエンジンを始動して浮上して降伏して、日本の八幡製鉄に終戦まで働いていた人でした。

その家から2軒離れた住民は、沖縄戦に参加して、泥土の戦場をはい回り、切込みの夜襲に逃げ回った人でした。同じ通りの数軒先には南太平洋で通信専門で終戦後は横田基地に駐留していた人がいました。ワイフの知り合いの主人は、硫黄島のすり鉢山の下の海岸に最初の強襲部隊で上陸艇で接岸と同時に頭を狙撃されて、鉄兜が貫通しなくて気絶して、乗ってきた上陸艇に引きずられて、頭にこぶが出来ただけで、二波の上陸艇で再度上陸して、海岸から100mほど行った所で、狙撃され腹部重症で砂丘を転げ落ち、その陰に看護兵が居たので、腹部重症ながら命が助かった人でした。

この人には、しみじみ大戦の感想を聞きました。私の仕事関係の知り合いでしたが、マニラの市街戦を体験した人でしたが、至近距離の戦いで、戦死した日本兵の日の丸を、家族に返してくれと持って来た人でした。

私の住んでいた市役所の窓口係の人でしたが、片腕が無く、12月に窓口を訪れた時に、日本軍の真珠湾の攻撃で負傷して腕を無くしたと聞かされましたが、その本人から感想を聞きました。アメリカの戦艦ミズリー船上で日本降伏調印式に参加するソ連軍の接待を受け持った人でしたが、その人にも話を聞きました。

大戦中に戦時貨物標準船の船長を務めた人にも長く付き合い、南太平洋諸島の戦いの状況を聞きましたが、最初にアメリカ兵と貨物をマニラから最初に東京湾に来た人でした。これらのアメリカ人は、戦前の日本人は猿の様に背が低く、眼鏡を掛け、程度も低い民族と教えられて、思い込んでいた部分があると話していました。

アフリカに旅をした時に、モザンビークの首都、マプトの難民キャンプを訪れた時に、帰りのバス待ちの時に、ポルトガル植民地軍とモザンビーク解放戦線の戦いの話で、日本軍が連合軍相手に原爆を2発も落とされて、戦って降伏したことを話していましたが、我々有色人は日本人は歴史の教師だと聞きました。

船の時代でベトナム戦争時でしたが、モーリシャス諸島にオランダ船に乗船して寄った時に、老人から話しかけられ、戦中は日本軍の潜水艦がイギリス軍の補給遮断作戦で来ていたと、昔に農奴として連れてこられたインド系の住民が言って、日本軍の力で植民地政策が終わったという話を聞きました。

インドでシニアになり仏教巡礼の旅にワイフと歩いて居る時に、私の父はインド解放国民軍の軍人だったと教えられ、インパール作戦で日本人の沢山犠牲になられた人達に感謝していました。連合軍の極東軍事裁判でパール判事が、日本は無罪だと言っていたことも知っていました。

インド人が曰く、最初に真珠湾攻撃を作戦を立案して、遂行して、日本人が2発の原爆で犠牲になり終戦になったが、それで幾多の世界の抑圧された国の国民が解放され、自由に選挙して、民主主義国家として独立したと、山本五十六氏の作戦の副産物が世界に対して、人々を根本から変えて、国家の独立と植民地政策の終焉と世界の人々に希望をもたらした作戦だと思います。

歴史は100年先に正解をもたらすと思います。

(桑港老亀)